



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2026年(令和8年)3月5日号 No.2017

目次

■ 2025年の印口貿易	
— インドによるロシア産原油輸入をめぐる最新動向 —	1
■ 統計速報	8
2025年1～12月のロシアの貿易 / 8	
■ エトセトラ	9
ウェビナー「GX分野における日本とカザフスタンの協力の可能性」開催のご案内 / 9	
■ トピックス	9
大和ハウス工業、ウクライナ向けプレハブ住宅のFS事業を開始 / 10	
「中央アジア+日本」対話、AIに関わる実務者会合実施 / 10	

2025年の印口貿易 — インドによるロシア産原油輸入をめぐる最新動向 —

(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所
主任 中馬 瑞貴

はじめに

インドは、ロシアによるウクライナ侵攻と西側諸国によるロシアへの経済制裁をめぐり、西側と良好な関係を保つ一方で、制裁には加わらずロシアとも良好な関係を維持している。侵攻以降の印口の関係発展は、インドによるロシア産原油を中心とするエネルギー資源の輸入拡大に依るところが大きいことは言うまでもない。侵攻と制裁によって欧州がロシア産エネルギーの輸入を減らした分をインドが買い支える構図が続いている。一方で、人口増や急速な経済発展によってエネルギー需要が年々拡大するインドにとっても安価なロシア産原油はエネルギー安全保障の観点から非常に有益である。ロシアと西側の対立が長期化する中、ロシアとインドは相互補完的に経済関係を強めているのだ。

しかし、西側にとってインドの動向は、ロシアの経済および継戦能力を維持するための支援として受け入れ難く、友好国でありながらもインドを批判する言動がみられる。特にトランプ米大統領は2025年8月にインドに対して50%という関税を課すことを決定。最大の貿易相手国による高関税はさすがのインドにも大きな打撃である。そしてついに2026年2月、インドがロシア産原油の輸入を停止することを条件にトランプ大統領が18%まで対インド関税を引き下げることが決定したと報じられた。米印の駆け引きにおいて、米国の勝利ともとれる報道であったが、それほど単純ではなさそうだ。

本稿では2025年の印口貿易の中からインドによるロシア産原油の輸入に焦点を当て、最新の動向について概説する。